

光当てると 磁石に変化

東大が新物質発見

東京大学大学院理学系研究科の大越慎一教授らの研究チームは、光を当てると磁石に変わる新種の光スイッチング磁石を開発した。鉄イオンと多量の有機分子を組み合わせた固体物質で、約253度Cで磁石になり加熱

すると元に戻る。有機分子が体積の80%以上含まれるため、さまざまな構造の光磁性材料の開発につながる。光で直接情報を書き込める光磁気メモリーなどへの応用が期待できる。科学技術振興機構の研究プロジェクトの一環で開発し英科学誌ネイチャー・ケミストリー電子版に6日発表する。